

雲南市立病院 新本館棟竣工記念

平成27年9月から着工された雲南市立病院改築工事のうち新本館棟がこのほど完成し、3月3日に関係者ら200人が出席して盛大に記念式典が行われました。また翌日には、3月22日の新本館棟開院に向けて一般者対象の内覧会が開催され、およそ2,200人が足を運びました。今後、現在の病院の東棟の改修工事や西棟の解体などを経て、来年9月にグランドオープンする予定です。

雲南市立病院はさらに信頼される雲南圏域の中核病院として、また免震構造を備えた災害拠点病院として新たなスタートとなります。



大雪除雪の取組と今後の課題

今年の冬は例年になく大雪・低温に見舞われ、日常生活に大変な支障をきたしました。特に2月4日から9日の間、断続的に降り続けた雪は地区内でも60センチくらいの積雪となり、気温も道路脇の気温表示はマイナス10℃にもなりました。地区民生児童委員さんや自治会福祉委員さん、また、ご近所さん同士、安否確認や水道の漏水確認、門先除雪、買物支援等、災害さながらの対応をしていただきました。また、早朝から除雪ボランティアの皆さんによる通学路の歩道を中心に除雪され、子どもたちや学校の先生などから感謝、感謝のメッセージが届きました。私たち歩行者も大変助かりました。

一方、連担地の市道除雪は、これまで同様、玄関前の寄せ雪等の問題で行政による除雪対応はされていませんでしたが、いつも以上の大雪に地区内外か

ら除雪対応は何とかならないかとの声が上がりました。雲南市3月定例議会でも自動車や歩行者の安全や緊急車両の乗り入れ等についての問題が指摘されました。今回の大雪において、自治会内で都合をつけて人力除雪対応された自治会もありましたが、やはり、大型除雪機による対応ともなれば関係自治会同士統一した行動、共通認識が必要です。3月10日に行なわれた地区連自治会長会で各自治会内の除雪状況が報告され、今後更に関係自治会間で対応協議を重ねた上で、積雪状況に応じた除雪対応を市当局へ要望していく方針が確認されました。



雲南市功勞表彰を受賞されました

1月4日に地元選出国會議員や県會議員、市民など140人が参加して加茂文化ホールラメールで行われた平成30年雲南市民賀詞交歓会で、平成29年度雲南市功勞表彰(11人・4団体)、自治功勞表彰(11人)の授与等がありました。

大東町関係では朝日照男さん、森山幸朗さん、若槻益雄さん、渡部満憲さん、鳥谷喜代子さんが、また、団体では地域文化の継承に多大な貢献をされた

「大東七夕祭保存会」、保護活動を通じて自然環境の保存に多大な貢献をされた「赤川ほたる保存会」、平和教育の推進に多大な貢献をされた「大東町戦没者遺族会」がそれぞれ受賞されました。皆様の栄誉に対しお祝いを申し上げますとともに、地域振興発展と公共福祉増進に益々のご活躍を心からご祈念いたします。



大東七夕祭子ども行列(昭和30年)



ほたる公園清掃作業



平和講演会(戦争体験を語り継ぎ世界平和を実現する会)

資料：雲南市HPより

平成30年 2月末現在の 人口・世帯数 〔()内は対前々月比〕	項目	総人口	男性	女性	世帯数	高齢化率
	雲南市	39,132人(▲102人)	18,830人(▲46人)	20,302人(▲56人)	13,826世帯(▲12世帯)	37.60%(+0.16%)
	大東町	12,487人(▲42人)	6,060人(▲25人)	6,427人(▲17人)	4,183世帯(▲4世帯)	37.38%(+0.10%)
	大東地区	3,624人(▲18人)	1,731人(▲11人)	1,893人(▲7)	1,255世帯(▲6世帯)	—

雲南共存病院の思い出

元事務局長 大久保 壽

念願の雲南市立病院新本館棟が完成しました。おめでとうございます。

病院を振返りますと、昭和23年に島根県農業会による開院後、大東町外9ヶ町村病院組合に経営移管され、更に公立雲南総合病院組合に、そして雲南市立病院としてスタートしました。私が病院に就職したのは昭和30年4月でした。管理者は大東町長の故高橋英夫氏で、元旦に会議室で開催する新年祝賀会には毎年出席されました。職員一同と親睦を深め、賀会の後は有志5名くらいで町長宅へ行き、御家族とともに祝杯を重ね、私は得意の「祝い唄」を歌ったものです。また、職員同士も和やかな雰囲気です。年末には医局、看護部、事務技術で自作自演の演劇や歌、踊りを患者さんや子どもさんと一緒に楽しんだものです。当時の院長は外科医の故向畑十四郎先生で、大変な勉強家でもありました。医学会や講



昭和40年8月撮影 雲南共存病院全景

演会での発表も多く、今のようにパソコンも無く資料の作成は手作りで大変でした。私も資料を家に持ち帰り夜遅くまでかけて作成手伝いをしたものです。また、先生はとても野球やスキーが堪能で、特に野球は当時盛んだった県医師会の大会に40歳を過ぎても大原郡医師会チームの一塁手として出場されていました。このような雰囲気でも業務も協力的に進み病院経営も順調に進んだと思っています。

病院業務の一番重要なことは職員が和の精神で一致団結し、「愛し愛される病院」を目指すことです。今後の雲南圏域の医療充実に一層貢献されることを期待します。

あいあい募金の活用による 地域文化の継承

河北盆踊り保存会 小山 益男

河北盆踊り保存会の歴史は古く、昭和50年代には50人～60人の踊り子がそろい、大東町をはじめ雲南三郡の懸賞盆踊り大会で優秀な成績を収めるなど活発な活動をしていた。

しかしながら、最近では地域の人口減少、会員の高齢化によりその活動がだんだんと困難になり、次世代への継承が危ぶまれるような状態になってきている。

こうした状況を何とか打開しようとしていた時、あいあい募金の存在を知り、その助成金を活用して音響設備や太鼓の整備を図るとともに、若い世代や子供にも呼びかけるなど踊りの輪を広げることで河北盆踊りの保存継承に取り組んでいる。

そうした中で、2月25日に古代鉄歌謡館で開催された雲南市文化協会大東支部主催の「第8回神話の杜芸能祭」へ出演することとなり、盆踊りでは珍しい冬場の練習を重ねて本番の舞台に臨んだ。

安来節、日本舞踊、創作ダンス、コーラスなど多彩な演目、達人な演技が続く中で、寒さを心配した浴衣姿も緊張と会場の熱気で吹き飛び、あっという間の10分間だった。

会場からの拍手と楽屋の他団体の出演者からの「よかったよ」という言葉で、素晴らしい大会に出演させていただいた喜びに会員一同が感激した一瞬であった。

あいあい募金の助成に感謝し、今後も地道な活動を通して伝統ある河北盆踊りの保存継承に取り組んでいきたい。



もちつき ぺったんこで ほっころり



今年で9回目となる大東生涯学習運営委員会、大東女性振興会共催の「異世代交流・国際交流もちつき大会」を2月24日（土）に大東地域交流センター芝生の広場で行ないました。大東町内の保育園・幼稚園・小学校や外国人技能実習生が研修中の企業、早稲田大学留学生ホームステイ事業を実施する雲南市国際文化交流協会等に呼びかけたところ、およそ120人の参加があり、委員やボランティアスタッフ約30人が準備した餅米9升を6回に分けて「よいしょ」「よいしょ」の掛け声に合わせてつきあげました。早速、きな粉や大根おろし、チョコフォンジュなどで食べながら年代、地域、校区、国を越えた交流を楽しみました。

(事務局：安部)

まなびの泉

雲南ジュニアバンド活動紹介

雲南ジュニアバンド
保護者会長兼指導者 鶴原 隆 (新庄)

雲南ジュニアバンドの活動につきまして、大東地区の皆さんには多大なるご理解とご協力をいただき、まずはこの場を借りて感謝申し上げます。

当バンドは、大東小学校を中心に雲南市内の小学生で活動している小さな吹奏楽団です。普段は、大東小裏のチャレンジクラブの2階で毎週土曜日に練習を重ねております。

さて、この機会に「雲南ジュニアバンド」の歴史について紹介させていただきます。

平成12年3月、学校週5日制導入で放課後時間が減少することより、大東小の「器楽広場(金管バンド)」が、活動を終了することになりました。しかし、それまで約20年続いたこの活動は、地域になくてはならない存在となっていることから、保護者と吹奏楽経験者である古城の内田君と私が協力して、平成13年度より「大東ジュニアバンド」を結成しました。

その後、児童の減少などにより、バンドとしての活動が厳しくなったことから、大東小校区以外の児童も受け入れることにより活動を継続することとし、「雲南ジュニアバンド」と名称を変更いたしました。

当バンドは、音楽を通して得られる心の豊かさ、ふれあいを第一の目的として活動しております。今後とも子どもたちの活動にご支援を賜りますよう、また、演奏の機会がございましたら、ぜひともお声をかけていただきますよう重ねてお願い申し上げます。

メンバーも募集しています。ご興味があれば見学・体験からどうぞ！



毎年恒例のえびすまつり



すずらん福祉センターの敬老会

「認定こども園 大東こども園」がスタートしてから1年が経ちました!

雲南市立 認定こども園 大東こども園 園長 古瀬 芳美

早いもので、昨年4月、満開の桜に囲まれ「認定こども園 大東こども園」としてスタートしてから1年が経とうとしています。

振り返ってみると、「大東幼稚園」から「大東こども園」へと移行しても尚、これまでと変わらぬ地域の方々の温かさに支えられながらの1年であったことを実感し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そこで、2月23日にお世話になった方々をお招きし「ありがとう会」を開催しました。この「ありがとう会」のために子どもたちは、「ありがとうの歌を歌ってあげたい」「ひょっこりひょうたん島のダンスも踊って見せてあげたい」とやる気満々!すると、絵本の読み読みのボランティアさん〔保護者さん〕たちも、「みなさんに大型絵本の読み聞かせを」と自主的に「ありがとう会」に参加してくださいました。また、コーラスグループの「グランマ」さんも、ステキな衣装を着て歌声を聴かせてくださることになりました。

さて、いよいよ楽しみにしていた「ありがとう会」の日、たくさんの方が快く来園してくださいました。すると、綿菓子屋さんの機械を持って来られたお客様を発見!こども園祭りの時に綿菓子屋さんをしてくださった狩野さんでした。「子どもたちのために」と、狩野さんからのサプライズに子どももお客様も心が弾みました。一緒にお茶を飲み、綿菓子を食べながら、「心が癒されたわ〜」とお客様も喜んでくださいました。



また、コーラスグループの「グランマ」さんのお心づかいにより、お客様も職員も一緒に歌って楽しむこともできました。

これまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えるための「ありがとう会」にご招待したつもりが、益々お世話になることとなり申し訳ない気持ちと有り難さでいっぱいになりました。

お客様に喜んでいただき嬉しかった「ありがとう会」!ご都合により欠席された方々が「また園に来てくださると嬉しいね」と子どもたちと話ながら終わりました。

このように、地域の皆様から温かな心でかかわっていただきながら、この1年間を過ごせたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

これからも地域の方々との触れ合いを大切に、地域に開かれた「大東こども園」でありたいと思います。地域の皆様、祖父母会・保護者の皆様、これからも宜しくお願いいたします。



自分の意見を伝える

大東中学校3年(卒業) 内田 愛

私が中学校での三年間で成長できたことは「自分の意見を持ち、それを伝えていくこと」です。

私の通っていた小学校は、小規模で学年を問わずとても仲良しでした。しかし中学校に入学すると、小学校の頃の十倍以上の同級生がおり、さらに先輩という存在が増えたので、あまりの環境の変化になかなか慣れることができませんでした。いつでも人の考えにうなずいてばかりで、自分の意見を持っていませんでした。

そんな私が変わるきっかけとなったのはパート活動です。大東中学校は、入学式や卒業式、体育祭をパートに分かれ

て生徒で作りあげていきます。特に一年生の時の体育祭では、先輩方が意見を出し合い魅力的な体育祭となっていく様子を目の前で見えていました。どの意見も自信を持って堂々と言っておられる姿はとても輝いて見えました。私もこんな風に自分の意見をはっきりと伝えられる人になりたいと強く感じました。

それからの私は、まず自分の意見をしっかりと持つことを心がけて生活し、人に伝えられるように頑張りました。そして少しずつ自分に自信を持ち、パート長も経験することができました。

自分の意見を言うときは不安になりますが、その一歩を踏み出すと、一年生の時は想像していなかった明るく自分らしい自分を見つけられました。高校ではまた新しい環境になりますが、もう一回り成長できるように頑張ります。

故郷の味を求めて“出雲そば だんだん”



田舎を離れると「おふくろの味」が恋しいとよく言う。何かと言うと関西味と関東に分けて論じられることが多い。田舎から出てなじむには時間がかかり、同じ料理でも店により異なることもあり、これもまた新しい発見となることも多い。

近畿に住んでいる者が「故郷の味を！」と思うと、島根県大阪事務所【大阪市北区西天満3-13-18 島根ビル2階】から知ることができる。そこから発行されている、島根県認定の『縁結びしまね（注参照）【島根が味わえるお店 in 関西】』という冊子があり島根県出身の方が経営されているお店が紹介されている。

その中に大東出身の方が経営されているお店。店名「出雲そば だんだん」が奈良でお店を開いておられることを聞き訪ねてみた。

初代の新田信昭さんは2年前に他界されたとのことで、今は二代目の娘の奈々さん（写真右）が引き継いでおられた。奈良でお店をされるまでは西町のグリーンシティの近くでお店を構えていたとのこと。よって二代目の奈々さんも平成12年に大東中学校を卒業されており完全な大東っ子。お会いする迄は勝手に奈良っ子と思っていたので面食らう。諸事情で奈良に移り奈良でお店を始めて10年位とのこと。



おすすめは「割り子そば」。早速いただくと田舎で食べた味。大阪で開店されている「とびた」以来の味である。ついでに島根の酒の王禄をちょっぴりと。

当日大東の広報紙「まるこやま 第47号」を持参したが記載されている名前を見て「この人知っている、この方も！」と懐かしく思っておられた。また松江木次線バイパス関係の写真では変わりゆく大東の姿にも懐かしさを。店は営業中であり他のお客もおられ遠慮がちにしかできなかった話に後ろ髪を引かれる思いでお店を後にした。

店に飾ってあった先代の釣られたキスの魚拓は二代目奈々さんの活躍を見つめていると同時にふるさとの情報を聞きたがっているようにも見受けられた。観光で奈良に行かれる方も多いと思います。JR奈良駅の近くですのて是非立ち寄っていただいて故郷の話に花を咲かせるのも良いではないでしょうか。大東から離れて近畿で錦を掲げておられる方も多いと思う。大東会の会員を増やす情報源として、このような繋がりが他への繋がりとして広がり若い会員も増えないかなあ〜と願っている。



出雲そば だんだん

二代目 新田 奈々さん

〒630-8115 奈良県奈良市大宮町2-2-34

電話：0742-30-6566

注：「縁結び美味しまね」とは関西で島根県産の食材やお酒を味わうことができるお店として島根県が認証した飲食店で、島根県では、県産品の認知度向上、販路拡大を目指し「縁結び美味しまね」認証事業に取り組んでいる。認証条件は

- ①島根県産品を1品以上、継続的に使用していること。
- ②メニューなどで島根県産品の取り扱いが表示されていること。
- ③飲食店営業の営業許可証を有している店舗であること。

(但し、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第1章第2条第1項～8号までに該当するものは除く。)

にがおえて
こんにちわ!

地域の財(たから)大東茶

(株)藤原茶問屋代表取締役 藤原 馨

私たちが住んでいる大東町は、古くから「お茶」が特産品と知られております。この「大東茶」の起源は今から240年前、松江藩第七代藩主松平不昧公が大東にお立ち寄りの際に出された番茶を飲み「良き茶なり」と申され、茶の栽培を命じたのが始まりと言われています。

私共は長い歴史の中で先人が築き上げた「地域の財」を後世に繋ぐため、小学校での出前教室や急須であまりお茶を飲まない若い世代にも飲んでいただけるような商品開発など取り組んでおります。また、昨年6月から瑞風のお客様に大東番茶を提供していますが、お客様から大変好評を頂いております。昨今では茶畑の荒廃や耕作放棄が進んでおり大変危惧しています。今年は不昧公没後200年という節目の年でもあります。これを機にもう一度「地域の財」に目を向けてみませんか？お茶が取り持つ家族や地域の方々のコミュニケーションで心豊かな町になって欲しいと不昧公は願っていると思います。



(絵：大東町東町北 細田 滋)

郷土の暮らしと文化

還暦を迎える総合センターの建物（元役場）

大木原自治会 安原 重隆

大東総合センターが近く解体されるようですが、この建物は昭和33年（戊年）に大東町役場として建てられたもので、本年（戊年）還暦を迎えます。

当時私は高校3年生の夏休み、上代工務店のアルバイトでほぼ完成した建物に入り「すごい！」と驚きました。役場の移転は、夏の暑い日に職員が書類や書棚を手を持って運んだと聞きました。

そもそも大東町は昭和26年に旧町村が合併して誕生し、二代目の高橋英夫町長が敏腕をふるわれ、先年解体された大東中学校も昭和29年に建設されています。当時、大東高校も雲南病院も木造でしたから、鉄筋コンクリートの建物はまさに画期的なものでした。

私はピカピカの大東中学校へも統合で入学し、ピカピカの役場へも新入6人と共に採用されましたから、役場の建物とは就職の意味で同年生です。

この頃の記憶では、昭和33年（高校3年の時）島根県畜産共進会が大東町で行われ、その協賛行事として

大東高校学園祭のカーニバルを繰り出しました。9月7日、11チームの仮装行列は町内をにぎやかに進し（わが3年1組は赤穂浪士）、共進会も県下の町村では初の開催とあって、大いに盛りあがりました。

60年前の古き良き時代が懐かしくよみがえります。

（写真は昭和40年に読売113号機から私が撮ったものです。）



大東のなつかしい風景や人々の生活を写した写真がありましたらご提供ください。（編集委員会）



あら き たか あき
荒木隆明さん
(南本町自治会)

日本三大地金の一つに数えられている地金魚「出雲ナンキン」を丹念に真心こめて育て上げ見事「日本一！」の栄誉に輝いた荒木金物店を経営する荒木隆明さんにお話を伺いました。



Q 金魚との出会いや飼うことになった経緯は？

子どもの頃、熱帯魚や金魚を飼っていましたが何故かすぐに死んだり、出雲ナンキンにしてもそんなに綺麗とも思いませんでした。30歳の時、松江で開催された出雲ナンキンの品評会で凄く綺麗な金魚を見て度肝を抜かれました。「自分も飼ってみたい。品評会に出してみたい。」と思ったのが飼うきっかけになりました。

Q 品評会（コンテスト）で日本一に選ばれるまでの過程を教えてください。

毎年10月に松江市で品評会が行われます。親魚の部、2歳魚の部、当歳魚の部の3部門で審査が行われ、そこで選ばれた40匹が島根県特別天然記念物に指定されます。

挑戦して15年目にしてやっと努力が実り、2歳魚の最優秀魚「日本一」を受賞することが出来ました。感激の一瞬でしたね。

Q 金魚の飼育で大切なこと、苦労していることは？

やはり毎日よく観察することですかね、体調とか、うろこの色とか、食欲とか、よく見ることで早めの対応が出来ます。体調管理は人間も同じですね。

大変なのは、水替えてしょうか、稚魚が生まれてからのピーク時は、毎朝4時には起きて世話をしています。（何でも育てることの大変さ大切さが見て取れるようです。）

Q 金魚の魅力は？

卵から育て、稚魚となりだんだん大きくなる。成長したらどんな姿、形になるだろうかと思うと本当に楽しみですね。（我が子を慈しむように、将来を見据えた飼育法が大切ですね）

私は、「金魚一本で他に趣味はない。」家族も飽きられるほどの金魚バカと笑います。

あの松江藩主の松平不昧公がこよなく愛し、飼育を奨励し特有の色・形が形成され、出雲地方のみで飼育されてきた歴史ある金魚、それが地金魚「出雲ナンキン」です。昭和57年に島根県の天然記念物に指定されています。

しかしながら、まだ知名度が低いので、毎年2回の奈良県での競り市にも出品し、全国の愛好家たちと意見交換したりして全国に「出雲ナンキン」をPRしていきたい……と熱い思いを語っていただきました。そだねー そだねー
再びのチャンピオンを目指して今日も水槽に向かいます。

あいあい募金

ご寄付に
感謝致します

事務局 TEL.43-2130

- ・大東町（古城）遠藤 繁 様（香典返し）
- ・大東町（田中下）中西 修司 様（香典返し）
- ・大東町（中町）石橋 智典 様（香典返し）
- ・大東町（北町）西村 武 様（一般寄付）
- ・大東町（大木原）安原 重隆 様（香典返し）

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただいております。